



本当の優しさとは何か

トーンウィセート シリクワン
THONGWISSET SIRIKHUAN

私はタイから来た技能実習生として、日本で介護の仕事を始めてから一年が経ちました

来日した当初、私を最も苦しめたのは「言葉の壁」でした。利用者様や職員の方と話すとき、自分の気持ちをうまく伝えられず、毎日が不安でいっぱいでした。それでも、相手の言葉に耳を傾け、分からなことは何度でも確認するという姿勢を大切にするうちに、少しずつ心を通わせることができるようになりました。

また、介護に対する考え方の違いにも大きな衝撃を受けました。タイでは、高齢者に対して「できるだけ手伝えること」が親孝行であり優しさだとされています。しかし、日本では「できることは自分で行う」という「自立支援」の考え方が非常に大切にされています。当初の私は良かれと思って何でも手伝ってしまい、「自分でできるから大丈夫よ」と優しく注意されたことがありました。

その経験から、私は「本当の優しさとは何か」を深く考えるようになりました。ただ先回りして手伝えることだけが優しさではなく、その人の尊厳を守り、その人が持つ力を信じて自立を支えることこそが、介護の専門性なのだと気づいたのです。以来、利用者様一人ひとりの様子を見守り、必要なときだけそっと手を差し伸べるケアを心がけています。また、安心していただけるよう、常に明るく丁寧な声かけも忘れません。

さらに、仕事を通して忘れられない出来事があります。それは、利用者様の「看取り」に関らせていただいたことです。最期を迎えられた時、施設では多職種が集まって会議が開かれました。職員、看護師、栄養士、そして施設長など、さまざまな立場の方がそれぞれの視点から意見を出し合い、利用者様との関わりを振り返る姿を見て、胸が熱くなりました。

その中で私も、「自分は利用者様にとって安心できる存在だったのか」「もっとできたことはなかったのか」と自問自答しました。そして、良かったことは自信にし、改善すべき点は次のケアに生かすという、プロとしての向き合い方を学びました。

この一年で、介護は決して一人で行うものではなく、チームで支え合うものだとし強く実感しました。また、利用者様一人ひとりの人生に深く寄り添うという責任の重さも感じています。

まだまだ日本語も介護の技術も未熟ですが、この一年で大きく成長できたと感じています。利用者様の「ありがとう」という一言は、私にとって何よりも大きな支えがあり、誇りです。これからも学ぶ姿勢を忘れず、利用者様一人ひとりの心に寄り添った温かい介護ができるよう、日々努力していきたいです。そして、日本で学んだ技術とこの介護への情熱を胸に、帰国後も誇りを持って働けるよう、残り期間も全力で取り組んでいきます。

受賞の喜び



国 籍 タイ
職 種 介護
実 習 実 施 者 社会福祉法人悠生会
監 理 団 体 職業訓練法人 キャリアバンク職業訓練協会

トーンウィセート シリクワン

今回、このような素晴らしい賞をいただくことができ、とても嬉しく思っています。
介護の仕事を始めてからの一年間、日本語だけでなく、仕事を通して人を支える
ことや思いやることの大切さを学びました。

これまで周りの皆さんに支えていただき、今回このような賞をいただくことが
できたことに感謝しています。

この賞を励みに、これからも学ぶ姿勢を忘れず、介護の仕事を通して少しずつ成
長していきたいと思っています。

指導員のことば

・指導の工夫

初めて技能実習生を受け入れる時は、戸惑いや不安もありました。

入国後研修を見学し、日本で介護の仕事を頑張りたいという素直で前向きな気持ちが全面に伝わり、受け入れる体制を作る事ができました。

指導者側は伝わりやすい日本語を意識しながら、育成スケジュールに沿って関わりました。指導内容や習得できた介護技術が何かを職員同士で共有する事で、指導が途切れる事なく関わる事が出来たと思っています。

・成長や頑張り

笑顔が素敵で優しい声掛けができるシリクワンさんを、入居者様はすぐに受け入れて下さいました。認知症ケアが求められる職種ですが、大きな声を出されてしまった時は対応に悩む日もありました。それでも、ユニット職員や同じ技能実習生の仲間に支えられ、入居者様をより理解する事で、1人に対応できるように成長しました。何事も恐れず挑戦する事で、日本語力も徐々に成長し、今では信頼できる職員へと成長しています。

社会福祉法人悠生会 高松 美和